A プリント 担当: 國島 加奈子 2000 年度第 2 回実施、田嶋 健一先生作の改変

A Seven-Year-Old-Boy with Fever,Lymphadenopathy,Hepatosplenomegaly and Prominent Eosinophilia (case26-1996)

発熱、リンパ節腫脹、肝脾腫大および著明な好酸球増多が認められた7歳の少年

## 【患者】 7歳 男性

【入院目的】 発熱、リンパ節腫脹、肝脾腫大および皮疹の原因精査とその治療

【現病歴】 生来健康であったが、2ヶ月前に発熱と見当識障害が生じた。他院に入院し、そこで痙攣発作が起きた。髄膜脳炎の診断により抗生剤が静注され、フェニトインとカルバマゼピンが処方された。患者は回復し退院した。退院後も両方の抗痙攣薬を服用していたが、1ヶ月後にフェニトインを中止した。当院入院の2週間前、再び発熱が生じた。発熱は主に朝に起こり38.9 に達した。食欲不振もみられた。

入院 11 日前、医師により全身性のリンパ節腫脹と肝脾腫大が発見された。検査データを Table 1 と Table 2 に示す。Borrelia burgdorferi と C M V に対する異染性凝集素および抗体のテストは陰性であった。 胸腹 X p は肝脾腫大以外の異常所見はなかった。

入院3日前、上腕・膝窩・足首に皮疹が出現。カルバマゼピンは中止された。発熱は続き40 にまで達した。入院日には2回嘔吐し、当院を受診した。なお、悪寒・発汗・頭痛・複視・光恐怖症は無い。

【既往歴】 最近の項部硬直・咳・排尿障害・下痢・筋痛・痛風・出血・打撲・動物による咬傷や掻傷は無い。適切な予防接種をすべて受けている。

【家族歴】 特記なし。両親と13歳の兄は健康である。

【生活歴】 猫を飼っている。生肉の食歴はない。最近1年間ニューイングランド州から出ていない。

## 【入院時身体所見】

<General status & Vital signs> 入院時に患者は血色が悪く、疲れているように見えた。BT 38.9 、PR 110、RR 20、BP 90/50mmHq。

<Skin> 前腕にはほぼ融合した紅斑性の細かい斑点状丘疹があり、その部位に掻痒感はなかった。脛の下部と足首には点状出血があった。

<Lymphatic> 両側の頚部および下顎リンパ節群が硬く孤立性に触知され、圧痛はなく、最大のものは3cm大であった。鎖骨上、両側の腋下および鼡径部にも、およそ1cm大のリンパ節が数個触知された。
<HEENT> 頭部に異常は無く、頚部関節の可動性は良好だった。

<Lung> n.p. <Heart> 左の胸骨縁にて / 度の収縮期雑音。

<Abdomen> 肝の下縁は右の肋骨下縁より6 c m下方で、脾臓の下縁は左の肋骨下縁より4 c m下方で触知。 背部、に圧痛なし。

<Extremities, Genitalia, Neurological> n.p.

## 【各種検査所見】

血算 Table 1 参照

生化 Table 2 参照。その他、BUN・Cre・Bil・Ca・Mg・CK・ALP も正常値。カルマバゼピンの血中濃度は 0.5 μ g/ml。

尿検査 正常

胸部 X p びまん性の間質性陰影

腹部 X p 脾臓の長径が 1 3 c m。肝腫大の所見。腸管ガスに目立った所見なし。骨所見も正常。腹腔内に石灰化像は見られない。

CMVに対する異染性凝集素検査 陰性

血液スメア鏡検 マラリアおよびバベシア症の所見無し。

## 【入院後経過】

入院後、好中球減少に対する予防処置が取られた。培養のための血液および尿の標本が採取され、ticarcillin-clavulanate sodium の投与が補液とともに経静脈的に行われた。体温は 41.1 まで上昇、アセトアミノフェンとイブプロフェンが投与され、冷却用のブランケットが使用された。

入院後 2 日目には体温は 40.8 まで下がり、翌日には 40 になった。ほどなくして、解熱剤の服用なしに熱が下がった。痙攣も見られなかった。

入院後4日目に、血算が再び測定された。(Table 1)

5日目には患者の状態は比較的良くなり、リンパ節・肝・脾の大きさもわずかに減少し、皮疹も消退してきた。尿酸・ビリルビン・GOT・GPT は正常値だった。他の検査所見は Table 1・2を参照。細菌培養の結果は陰性で、抗生剤の投与が中止された。

ある診断的手技が施行された。

TABLE 1. HEMATOLOGIC LABORATORY VALUES					
	11DAYS BEFORE	ON	ON 4 <sup>TH</sup> HOSPITAL	ON 5 <sup>TH</sup> HOSPITAL	
VARIABLE	ADMISSION	ADMISSION	DAY	DAY	
Hematocrit (%)	37	32.6	31.7	31.4	
Reticulocyte count (%)		2.6			
ESR (mm/hr)		10			
White cell count (per mm³)	11,400	5,600	15,600	22,400	
Differential count (%)					
Neutrophils	32	4	5	5	
Band forms	7	5	2	0	
Lymphocytes	21	39	65	66	
Metamyelocytes	1	0	0	0	
Atypical lymphocytes	5	0	3	11	
Monocytes	6	6	3	7	
Eosinophils	27	46	22	10	
Basophils	1	-	-	-	
Platelet count (per mm <sup>3</sup> )	294,000	264,000	289,000	327,000	
Prothrombin time (sec)		13.3			
Partial-thromboplastin time		33.7			
(sec)					

TABLE 2. BLOOD CHEMICAL FINDINGS.						
	11 DAYS	_	ON 5 <sup>TH</sup>			
	BEFORE	ON	HOSPITAL			
VARIABLE	ADMISSION	ADMISSION	DAY			
Glucose (mg/dl)		140				
Uric acid (mg/dl)		2.1				
Phosphorus (mg/dl)		3.9				
Protein (g/dl)		5.6				
Albumin		2.9				
Globulin		2.7				
Sodium (mmol/l)		133				
Potassium (mmol/l)		4.1				
Chloride (mmol/l)		100				
Carbon dioxide (mmol/l)		23.9				
Lactate dehydrogenase	429	493	487			
(U/l)						
Aspartate		49				
aminotransferase(U/l)						